

視 察 報 告 書

報告者氏名 中 川 弘



1. 委員会名

つくばエクスプレス沿線整備と新川耕地・周辺特別委員会

2. 期 間

平成 26 年 10 月 22 日(水)～23 日(木)

3. 視察と市等及び視察項目

(1) 福岡県志免町

ア. 「若い世代急増におけるまちづくり」

(2) 福岡県飯塚市

ア. 「トライバレー構想による産学連携の取り組みについて」

4. 所感等

(1) 福岡県志免町

ア. 「若い世代急増におけるまちづくり」

【概要】

福岡市の東隣に隣接する粕屋町、志免町、宇美町は人口減少する自治体が多い中、人口増とりわけ若い世代の人口増が著しい地域である。新線開発に伴う人口増により学校・保育園など公共施設の整備に取り組む流山市でも参考とすべきと考え3自治体の中から志免町への視察をおこなった。

志免町は近年福岡市のベッドタウンとして急速に人口が増加しており、その人口密度は1平方キロメートル当たり5,000人に達し、町としては全国一である(ちなみに流山市より高い)。福岡市およびその周辺自治体における水不足は深刻で、福岡市・福岡空港に隣接する好立地にありながら集合住宅の建設抑制を長年実施してきた。平成11年に水事情が好転し、その制限を解除したことから特に福岡市に隣接するエリアで集合住宅が大量に供給されたことにより特に若い世代の人口増が続いている。

福岡市内方面への網の目の様に整備されているバス路線、空港まで行けば地下鉄おありなど福岡市内への通勤・通学に便利であること、多くの雇用を生む福岡空港に隣接していることから職住接近を求める若い世のニーズにマッチしている事その理由となっている。

又、上下水道は町内ほぼ全域に整備され病院・診療所等の数も多く生活面での安心感もある。

その一方で、従来からある比較的福岡市から離れている団地の高齢化の進展などの地域間格差や医療費の高騰、高い水道料金（水不足解消のための投資負担）などが生じている。

【所見】

水事情により集合住宅の建設抑制をせざるを得なかったことから、人口増抑制期間に社会資本整備をどの様に進めてきたのか？ 流山市でも参考になる点があるのではと云うのが当初の視察の目的であったが、計画的に推進してきたのは事務組合による上下水道の整備で、町として計画的に整備を進めてきた事は特にないとのこと。町域における都市計画区域の比率がもともと高かったことなどから上下水道の税美率が90%後半に達している。

通常、自治体に於いては計画的に事業を進めて行くことが一般的であるが、潜在的な成長力のある地域ではむしろ自然の流れに任せるといふ政策も選択肢としてあると感じられた。

(2) 福岡県飯塚市

ア. 「トライバレー構想による産学連携の取り組みについて」

【概要】

江戸時代には宿場町、商業都市として栄えていた飯塚市はその後の石炭産業の隆盛、衰退を経て、人口が急速に減っている筑豊地区の中心都市である。その中で、大学の誘致を進める等してきた。近年は、北九州市と結ぶ筑豊本線、福岡市と結ぶ篠栗線が電化され福北ゆたか線と命名されこれらと市への通勤・通学への利便性が向上し、近年両市のベッドタウン化も進行している。

企業誘致による町づくりでは工業団地を中心とした事業が多い中で、e-ZUKA トライバレー構想による産学連携の取り組みは異色でありベンチャー企業、情報産業誘致を推進する流山市に於いても参考となるべき点があると考え視察先として選択した。

この事業に於いて大きな役割を果たしているのが誘致した九州工業大学 情報工学部、近畿大学 産業理学部の存在が大きい。市外からも多くの研究者・学生があつまっており、それらの人数は人口の3.5%を占めるに至っている。

一般的に、大きな雇用は望めないものの、情報産業は比較的少ない費用で起業が可能であることや、インターネット等の技術の進展から立地条件からくるハンディが少ない等から大学と連携することで市内に5つのインキュベーション施設が存在し、大手企業が参加したアプリコンテストなども開催され成果を上げつつある。

卒業した学生の地元就職というサイクルも確立しつつあり、学生の8%程度が地元で就職している。この比率は、非常に高く事業の成果が上がっていると言える（大学の先輩が後輩を誘うサイクルが確立しつつある）。

【所見】

情報系の学科を有する地元大学と連携し、テーマを絞った形で事業展開がなされており、総花

的な流山市と比較しても特定分野に特化している点は参考になる。

当市に於いても、学生が中心となって企画されているイベントがあるが、専門性に於いて特に関連があるわけではない事から、地元の雇用につながる事が無いのは残念である。

流山市において同様な事が可能か振り返ってみると当市にある大学にある学部に関連する事業は起業が容易でない等の問題もあり、当時の時流であったと思われるが情報工学系お大学を誘致した事は先見性があったと言える（大学で有れば何でも良いわけではない。昨今はその存続に問題のある地方大学は多い）。

実際に視察してみた結果、当特別委員会の諸葛事項とは少々離れてしまった感は否めないがモチ作りは様々な面から進める必要があり、議員としての知見を深めることができた事は意味がある。

視 察 報 告 書

報告者氏名 楠山 栄子



1 委員会名

つくばエクスプレス沿線整備と新川耕地・周辺特別委員会

2 期 日

平成26年10月22日(水)～23日(木) 1泊2日

3 視察地及び調査事項

- (1) 10月22日(水) 福岡県志免町
若い世代急増におけるまちづくりについて
- (2) 10月23日(木) 福岡県飯塚市
e-ZUKAトライバレーについて

4 所感等

1日目志免町「若い世代急増におけるまちづくり」

かつて炭鉱の町として栄えた志免町は、炭鉱閉山とともに、人口は大幅減少した。その志免町が今、人口増で脚光をあびつつある。人口増において、流山市と異なる点はシティセールスを仕掛けた結果でもなく、誘致を図るでもなく、その持てる資源で自然増加している点である。極めてうらやましい限りである。

日本が高度成長期にあったころ、流山市と同じように、志免町も建設ラッシュに沸いた。しかし、志免町には自己水源がなく、需要の急激な増加に対応がとれず、人口抑制策をとらざるを得なかった。その後、福岡地区水道企業団に加入し、水供給が整った結果、人口抑制策を解き、再び、新たなニュータウンが建設されるようになった。結果、志免町は1960年代のニュータウンと今のニュータウン、つまり、若い世代と高齢化が混在する町となった。

高齢化対策で興味深いのは、志免町の高齢者医療費の高さであ

る。75歳以上住民の1人当たり医療費、つまり、後期高齢者医療費が極めて高い。福岡県は都道府県別で全国1位、その中で、志免町が第4位。志免町の説明によれば、「理由は医療機関が多いから」。確かに、クリニック34か所、病院5か所、救急病院2か所は人口4.5万人の町にしては多い。財政への負担は今後、さらに厳しくなるだろう。対策として、志免町は健康づくりへの意識高揚と健康寿命向上にむけた取り組みをすることによって、医療費を抑えると説明する。この課題は、後期高齢者医療費がいつも千葉県で1位、2位の流山にもあてはまる。他人事ではない。

2日目飯塚市「e-ZUKAトライバレーについて」

江戸時代は宿場町、明治時代は筑豊炭田で全国一の出炭量を誇っていた飯塚市が、昭和で石炭産業の衰退を経験し、平成になった今、大学、研究施設、産業支援機関、大学発ベンチャー企業等の集積地と生まれ変わっている。国の「飯塚アジアIT特区」を受けて、日本の未来を目指すまちづくりが興味深い。

シリコンバレー視察から始まったこの構想は、開始から10年、3つの大学を有する学園都市飯塚市が炭鉱跡地に工業団地を造成し、製造業の誘致が行ってきた。結果、ITを中心とした新産業都市として生まれ変わった。以下は飯塚市に特徴的な強みである。

① 大学、研究機関が多い

九州工業大学、近畿大学、近畿短期大学など、市内大学、短期大学の学生数・教員数は4600人。市内人口(13万人)の約3.5%を占める。

② 研究機関、産業支援機関、インキュベーション施設の集積

大学付属の研究機関、県、市、民間のインキュベーション施設等が充実

③ ベンチャー企業の集積

企業を中心に約50社が集積。半数以上が情報通信業を占める。九州工大は全国10位の大学発ベンチャーの設立数を誇る。

この環境を背景に、e-ZUKA トライバレー構想は三つのステージで展開してきた。第1ステージ：日本一創業しやすいまちをめざし、5年間で80社の創業、誘致が行われた。しかし、倒

産、廃業、解散した企業も少なからずあった。第2ステージでは、その反省から、人材育成を強化、ITを活用し既存産業の活性化と地域のイメージアップを図った。そして、今、第3ステージ、「人と産業が集まり成長するまち」を展開する。

第3ステージでもっとも力をいれているのが、「医工学連携」プロジェクト。飯塚市には、情報工学の医療への応用を目指した九州工業大学バイオメディカルインフォマティクス研究開発センターや飯塚病院があり、その他多くの医療機関が集積している。人口当たりの病床数が多く（全国平均の1.5倍）、医療従事者が多い。病院と大学と行政が連携し、医療機器の研究開発、医療サービスを発展させて、どうやって、地域に新しい産業を生み出していくか、模索する。

e-ZUKAトライバレー構想は、そもそもが地方自治体の枠を超えた国家の壮大な産業政策である。国の特区を受けてできる施策であり、いまずぐ流山に活用するというのはむずかしい。が、流山との共通点をひとつみた。全国からプレゼンを募る 飯塚スマホアプリコンテスト。飯塚市の企業だけでなく、全国のアプリ開発者にプレゼンをしてもらう『飯塚スマートフォン・アプリコンテスト』を開催している。流山市もwebアプリコンテストを行っている。目的は、流山市民の利便性向上につなげるという限定はあるが、応募者は市内在住に限定していない。こうした、お金のがかからない、小さなことから、流山市も新しい時代に参入していくことになるだろう。

視 察 報 告 書

報告者氏名 中村 彰男



1 委員会名

つくばエクスプレス沿線整備と新川耕地・周辺特別委員会

2 期 日

平成26年10月22日（水）～23日（木）1泊2日

3 視察地及び調査事項

- (1) 10月22日（水）福岡県志免町
若い世代急増におけるまちづくりについて
- (2) 10月23日（木）福岡県飯塚市
e-ZUKAトライバレーについて

4 所感等

【志免町】

◇人口の増加

近年20年間で2万人増加している。人口減少社会にあって2040年までの推計値でも着実な増加が見込まれている。これは、福岡市に隣接しているという立地効果が大きい。

また、九州新幹線の開業により大型店舗など商業施設が立地され女性の働く場所に恵まれ20代から30代の女性の人口も増加している。

過去には、水道水の供給が不足することから20戸以上の集合住宅には水道水の給水規制を行っていたが福岡県と周辺の町による広域的な上水道の整備により水供給が整ったことから町は平成13年度にこれを解除したところ再びマンションの建設が相次ぐこととなった。戸建住宅ではなくマンションが中心で若い世代の人口増加となっている反面、先の開発された地域での高齢化の進展も著しい結果となっている。

流山市と同様に定住意向市民が多いとのことで、福岡市に近接し交通の便が良いことや生活環境の医療機関の充実が定住意向の大きな要因のようである。8.7㎏という行政面積にあって、5つ病院（200床程度）と34の診療所、11の歯科医院と60もの医療施設が存している。

◇子育てと教育

人口増加に伴い、やはり待機児童の解消が問題となっており、保育園の民営化により整備や学童保育所の増設に力を入れている。また、子どもの権利のため平成19年に子どもの権利条例を制定している。（平成19年度）公民館を利用したNPOによる子どもの居場所事業を展開し、不登校対策やレクリエーションを行っている。

◇今後の課題

先述したように古くから開発された地区と新しく開発された地区との高齢化率の地域間格差が大きいことから、きめ細かな行政手法の展開が求められる。

これまではマンションが主流で開発されてきているが、今後は、さらに定住率向上のため戸建住宅の誘導も必要。

また、医療機関の充実に伴い、75歳以上の高齢者の医療費が福岡県第4位と高額な水準にあることから、健康づくりと健康寿命向上に向けた取り組みが重要となっている。

（視察対応をしていただきました志免町議会の大林議長、長事務局長、企画経営課の権丈課長、小池課長補佐、百田係長にはあらためて御礼申し上げます。）

【飯塚市】

◇市の概況

飯塚市は福岡県のほぼ中心の位置にあることから高速道路の直近でなくても国道のバイパスが市内を縦横の走るというローケーションであることから企業の誘致を進めており、工業団地にも物流関係の企業が進出している。

人口的には福岡市のベットタウンとしても価値が見いだされ出生・死亡による自然減はあるが、マンションの建設等に

よる社会動態は増加に転じている。また、朝の連続小説「花子とアン」に登場する仲間由紀江が演じる蓮子（柳原白蓮）の夫で炭鉱王として名を馳せた加納伝介（伊藤伝衛門）の旧邸宅を市が購入し、観光施設として整備・活用するとともに、同じく大河ドラマ「軍師官兵衛」に関してもゆかりの地などが数多くあることから、これらを活かした観光行政に力を入れている。

◇産学連携の取り組み： e-ZUKAトライバレー

炭鉱閉山の疲弊から企業・大学の誘致への施策の転換を図り、平成13年ころの経済産業省が掲げた「大学の技術を基にした大学発のベンチャー企業創出計画」の波にも乗り、飯塚市でも大学発のベンチャー企業の進出や大学を核とした研究施設や産業支援機関の集積が図られてきた。このような特性を活かした産業振興を図るべく平成14年にe-ZUKAトライバレー構想という産業施策を打ち出した。

市の特性（強み）として、2つの大学と1つの短期大学が誘致され、理工系の学生と研究者が市の人口の3.5%を占めている。さらに研究機関・産業支援機関・企業支援施設やベンチャー企業の集積が図られている。大学発のベンチャーにおいては情報系のビジネスが多く、この起業にあたっては初期投資が少なくて済むという利点によるものと考えられる。

トライバレー構想策定までの取り組みとして、平成9年からシリコンバレーの視察、スタンフォード大学の言語情報研究センターとの連携協議やJETRO（日本貿易振興機構）の事業等を活用してシリコンバレー地域との産業交流を展開していた。

◇トライバレー構想の概要

4本の施策の柱

第1ステージ(H15~H19) ⇔ 第2ステージ(H20~H24)

①産学官連携

①人材の育成と集積

②ベンチャー支援

②産学官連携

③人材育成

③企業の成長に合わせた

ベンチャー等の支援体制の強化

④ 企業誘致・案件創出

④ e-ZUKA ビジネスモデル構築のための案件創出・企業誘致

第2ステージでは、更に国際化への対応・大学との連携を深め市場創出につながる戦略プロジェクトとして飯塚市を実証実験のフィールドとして多くの企業を誘致・集積しようと同様な取り組みを行ってきた。(多くの人が集まる刺激的な街づくり)

実証実験のフィールドの取り組みの1つとして医工学連携にも取り組みを始めた。

平成25年度からは第3ステージとして、人と産業が集まり成長するまちをキャッチフレーズに地域の起業力・企業力の向上のため①地域企業のイノベーション促進、②課題解決型ビジネスの創出、③企業ニーズに応じた支援体制強化、④人材と技術・情報の集積の基本施策に加え、重点プロジェクトとして医工学連携の推進を中心に産学官連携の強化を図り、新しい産業の創出に取り組んでいる。

◇ 企業支援体制

- ・ 大学生の起業意識や若い人材への働きかけ
- ・ 起業に向けた活動費の補助や起業家養成講座の実施
- ・ 起業に必要な融資、停学な使用料でオフィスを提供
- ・ 研究開発力向上や商品の販路開拓への補助
- ・ 新産業創出支援のための経営コンサルタントの配置や社会保険労務士、行政書士が会社設立手続きや財務・労務など経営課題の解決に必要なサポート体制を整えている。

◇ e-ZUKA トライバレーセンター (インキュベーション施設)

新産業の創業を目指す起業家や創業後間もないベンチャー企業に対し良好な研究開発環境を低廉な利用料で提供し、研究開発型企業の集積を目指す。(トライバレー構想第1ステージの目玉的な存在として整備)

平成13年以降の大学発ベンチャーのブームもあり、この

トライバレーセンターから巣立っていったベンチャー企業が多いが、現在は19室のうち9室しか利用されていない。これはリーマンショック以降、起業が下火になったことと中小企業の新分野への進出の停滞が要因と思われる。

しかし、国においても本年2月に産業競争力強化法を打ち出し、これからも創業力向上の施策を打ち出しているので飯塚市もこの波にとり起業・創業へのさらなる取り組みを推進する。

◇現在の具体的事業

- ・IT関連事業（技術者の養成）としてスマートフォンアプリコンテストを実施（技術者が大いまち飯塚市の全国アピールにもつながる。）
- ・地域学生との連携・異業種交流
チャレンジプロジェクト補助事業：市内の学生が様々な産業振興に係わる活動を行う際の補助
- ・起業家養成講座の開催
- ・地域合同会社説明会

3大学、5000人近く学生がいるがそのほとんどがこの地に留まってもらえず大手企業へ就職する状況にあるが、地元にも大変ユニークで素晴らしい技術を持っている企業もあることから、これらの企業を知ってもらおうと平成20年度から合同会社説明会として企業と学生のマッチングの場を設けている。

- ・e-ZUKAトライバレー産学官交流研究会

気軽な交流の場として毎月開催しており、既に100回を数えている。

◇重点プロジェクト：医工連携事業

大学のほかにも医療機関、医療関連従事者の集積が図られており医療施設は149を数える。

（病院13、一般診療所136）

九州地域は高齢化率が高い地域であり、また物づくりの地域であり自動車関連産業の企業の集積もある。現在、国では医療関連産業を成長分野の1つと位置付けており力を入れ

て支援して行く体制ができています。飯塚市も新しい産業を生み出すために医工学連携を推進し、医療機器関連企業の支援や具体的に大学と企業のマッチングなどに取り組んでいる。

このマッチングのため、医工学連携の協力推進に関する協定ということで市内の病院・九州工業大学・飯塚市・飯塚研究開発機構の4者で協定を結び、研究交流や共同研究人材育成などを行っており、医工学連携にはかなり力を入れて取り組んでいる。

このように飯塚市は、市の特性や強みをしっかりと把握し産業振興、地域振興やまちづくりに取り組んでいる自治体であると感じた。

最後に「花子とアン」や「軍師官兵衛」などテレビ放映による経済効果や他県からの企業進出意向について尋ねた。

◇先月「花子とアン」の放映が終了したが9月はすべての観光施設の入場者数が開館以来最高数を記録した。これまでは1日で多くても数百人であったものが先月は4500人近く方に訪れていただいた。先月の来訪者は46000人を超えた。多くの方にお越しいただいているが観光面の課題としては観光施設が点として存在しているだけで、それぞれのつながりがなく、お土産を買うようなところもなく十分なおもてなしができず、次に発展して行ける要素が少ないという状況にあるが、観光行政としてはこのような課題の解決が重要と考えているとのことでした。

・これまでの話を聞き、住みよい街、そして企業もあらためて街を認識し進出意向が期待できるように感じるがそのような案件がありましたか。

◇先般、伊藤伝衛門邸にいられた首都圏の方が飯塚で会社を興すための土地の相談があったとのこと。

以上

(視察対応をしていただきました飯塚市議会の道祖議長、中村事務局次長、経済部産学振興課の久原課長にはあらためて御礼申し上げます。)

視 察 報 告 書

報告者氏名 森 亮二



1. 委員会名：つくばエクスプレス沿線整備と新川耕地・周辺特別委員会
2. 期間：平成 26 年 10 月 22 日（水）～23 日（木）1 泊 2 日
3. 視察先及び視察項目

(1) 10 月 22 日：福岡市志免町

流山市の人口は平成 26 年 3 月末に 17 万人となりました。昭和 42 年の市施行時が 4.2 万人でしたので、約 40 年で人口が 4 倍増えたこととなります。同時に昨年度一年間を見ても 2,500 人の人口増という数字も出ています。これは他市からも理想とされる街づくりの現況と言えます。

一方で、国政では「地方創生」という言葉に代表されるように、人口減少、少子高齢化、過疎化など国全体として縮小傾向にあります。ですので、人口が増えていても、減っていても、全国の自治体はどのような街づくりを展開していくか大きな分岐点を迎えています。

と言いますのも、我々の自治体のように人口誘致などがうまくいっている自治体と言えども、近い将来には人口流入が止まり、減少段階を迎える時期を迎えます。その時から様々な問題と向き合うようでは、事態の解決策に遅れをとってしまう懸念があるからです。とくに「財政運営」や「街づくりの方向性（コンパクトシティ化など）」は主要な課題と言えます。

多くの自治体は成長期には巨大な投資が必要となります。その一方、今の地方自治体から学ぶとすれば、人口が頭打ちになった瞬間、今度は財源捻出などの歳入確保面の課題の顕在化、また公共施設など社会インフラ更新や人口動態の変化に伴う扶助費の増大など支出抑制が求められる段階に入ります。現在、自治体の多くはこの課題と向き合っておりますが、抜本的な解決策を見いだしていません。同時に国も対策の方向性を示しておらず、今後は更に問題が大きくなることが予見されます。

だからこそ現在は順調な人口増の段階にある自治体としても、現在や過去からの教訓を生かしたまちづくりを行うことで、将来的な財政負担の緩衝策や街づくりの整備の指針（コンパクト化）を示していく必要があると思います。

流山市が東京のベッドタウンであるのと同じように、志免町も福岡市のベ

ッドタウンとして発展。現在の人口密度は約 5000 人/km²と高い状況にある稀
有な自治体です。この勢いは当分続くと予想され、2040 年においても人口変
化率のマイナス幅は他市に比べても圧倒的に低い状況です。これは街づくり
の理想とされる若年層の流入が多いということの表れともいえます。担当者
の説明にもあった「人口誘致策はとっていない」中でも更に発展し続ける志
免町。その実態は、当市と同様に「通勤や買い物など交通の便が良いから」「住
宅事業や生活環境が整っているから」といった評価点に加えて、「医療機関が
充実しているから」「災害や犯罪が少ないから」といった志免町ならではの街
づくりのバランスの良さを感じさせる「住民の定住意向」を強く感じました。
このような点は当市においても大きな参考になる部分と言えます。つま
り住民の誘致策一辺倒ではなく、新しい定住者の満足度を上げるには後者の
面をより強化していく必要性を感じた側面でもあります。

一方「子どもが安心して育てられる環境・教育環境の充実」という点にお
いては当市も負けていないように感じられました。「待機児童解消」「病後児
保育などの子育て支援充実」に向けては「子供の権利条例」といった法整備
を行うなど、当市と同じようなプロセスを辿っています。今後もこのような
基本方針は一層充実強化していく必要があります。

ただしプラス面ばかりでないのも事実。志免町における今後のまちづくり
の課題として伺った「人口増加地域と高齢化地域のバランスとそれに伴う行
政運営の問題」、またベッドタウンであるが故「住民の定着率を上げる施策展
開」などは当市で言えば南部地域（とくに南流山地域）に見られる課題とし
て、お互いが切磋琢磨しアイデアを出し合う必要があります。

近隣市町村と合併し、街を大きくしていくことを見送った志免町。順調の
街が拡大していく中で見られた課題や今後の見通しは、当市のまちづくりと
ほぼ同じ歩調であるが故、注視をしていく自治体の一つとなりそうです。

(2) 10月23日：福岡県飯塚市

流山市の街づくりの大きな方向性の一つである、産業振興という視点か
ら飯塚市が打ち出している『e-ZUKA にける産学連携の取り組み（トライバ
レ一構想）』について調査しました。新産業の創出、企業育成という視点は過去
の議会で質問を展開してきた経過から大きな成果を得ることができたものと
感じています。

もちろん、同市は当市以上に恵まれた環境があることは否めません。その一
方で、やはり先見性（シリコンバレーとの交流を中心に据える）を持ち、実際

にシリコンバレーへの視察に見られるようにしっかりと行動に生かした点は当市が学ぶ姿勢であると思います。

当市も産業振興基本条例を制定し、高い理想を掲げています。同時に担当部長目標でも「新産業の創出」などが毎年のように謳っている一方で、大きな成果は見られません。このような事業は一朝一夕で見られるものでなく、根気と情熱をもって挑んでいく必要があります。

トライバレー構想の功績を見れば、その情熱の一端を見たような気が致します。「2003-2007 の第 1 ステージ」は①情報関連産業の集積②IT を活用した既存産業の活性化③地域のイメージアップを目指す姿としてきました。続いて「2008-2012 の第 2 ステージ」では「大学力を活かした地域経済の活性化を目指す」による①人材の育成と集積②産学官の連携強化③企業の成長に合わせたベンチャー等の支援体制の強化④e-ZUKA ビジネスモデル構築のための案件創出・企業誘致の大きな施策を経て、現在は第 3 ステージを迎えています。

もちろん全てが順調に言っていたわけではないことは、担当者の説明からも感じ取ることが出来ました。景気という大きなハードル、財政面、また地域性などの課題はこの事業の推進にあたっては当然見られる課題と感じています。この辺りは今後当市が行動に動いていく中では、しっかりと教訓にしていく必要があります。

また従来産業振興策は県が主体的になるのが一般的でありました。この件に関する質問では「トライバレー構想」策定時のメンバーには県職員が入り、様々な助言を頂いた」とのことでした。しかし今までも県主導の産業振興策によって得られた効果が限定的であることを踏まえては、もっと踏み込んだ権限移譲などの構造転換の必要性を自治体から声を上げていく必要があります。日本の産業政策と言えども中小零細企業が 9 割以上を占める中で、地方自治体と共に歩み中小零細企業の活性化なくして、日本の産業振興の目はないと感じています。前述のような幾多の壁は伴いますが、1,750 の市町村が果敢に挑めばやがては大輪の花を咲かすものだと感じています。

また同市にある 3 つの大学に対して「起業精神」の醸成を求めている点も大変に共有するものでした。これに関連した質問として、「義務教育である小中学校の授業においても、起業精神を育む教育は行っていますか」という点に対しては、以前はというものを経済産業省の取り組みに公募して「起業家教育」を実施していたというものでした。(現在は終了) 私の記憶するところ、日本の小中学生に関しては先進国の中でも、起業の精神がとりわけ低い、というデータがあったものと記憶しています。義務教育の中で、この点を強化することは、世界に負けない強い日本、持続可能な日本を作る上でも大切なものの一つと考えています。

現在の国政における「地方創生」への取り組みにも見られるように、今後は広域的な視点をもつ都道府県よりも、市町村が中心となり、教育面を含む産業振興策に関してしっかりと取り組む姿勢が求められそうです。今後、政府がどのような施策を出すかは、現時点では不明ですが、産業振興に関わる権限・財源・人間（人材）を市町村にしっかりと移管していく姿勢が必要かと感じています。同時にそのような流れを作るべく、基礎自治体から行動を伴いながら、大きな声を上げていく必要があることを感じた視察内容となりました。



■ H 2 6 年 1 0 月 2 2 日 福岡県志免町～人口増加におけるまちづくり～

福岡市及び福岡空港に隣接した人口 4 万 5 千人、行政面積 8. 7 k m²の町が、全国でも人口増加がトップレベルであることから、インフラや人口急増地域における課題（学校、保育園、自治会加入）を中心に視察した。

●感想

本市は、9 5 億円も出資した T X が H 1 7 年に開業し、市内 3 駅の設置等を背景に人口が増加している。しかし志免町は、福岡市への人口集中による外的要因に大きい。

一般的には、区画整理もせず、外的要因での人口急増は、街の姿をいびつにし、下水道、道路、ゴミ収集など生活に欠かせない基本問題で課題が山積し、住民の不満を広げることになりがちである。しかし志免町は、課題はあるものの大きな矛盾となっていない。その背景には、第 1 に、水道給水規制も断行（H 1 3 年解除）するなど、受け皿が伴わない中での人口急増に毅然と対処してきたこと。第 2 に、下水道普及率が 9 割を超えるなどインフラ整備を着実に進めてきたこと。第 3 に、合併せず、小さな自治体として隅々にまで行政の光が届く関係性が構築されていることなどがあげられると考える。

また、救急病院や診療所などの医療機関が、人口が多い福岡市に近接し、地代（固定資産税も含め）が安く、まとまった用地確保が可能な志免町に進出していることで、町民の『安心』につながっている。

●本市に活かすべき点

・地域間で異なる住民構成を見据えた施策

本市同様、志免町も『人口急増』という要因によって、地域によっては高齢化率が 4 0 % に到達する地区がある一方、児童が急増し、1 0 0 0 人をこえる学校が誕生している地域がある。

そういう中で志免町では、住民構成を背景に街づくり政策を変更するとともに、ニュータウンもいずれオールドタウンに移行することを深め、3 0 ・ 4 0 年先を見据え政策立案が協議されていること大変重要だと考える。

・高額な医療費への対処

本市でも高齢者の高額医療費への批判や嘆きを議会でも行政でも聞くが、これは、長寿を喜べない議会・行政となってしまう、元気ではない高齢者は悪の根源ということにもなりかねず、プラス思考が失われてしまう。

志免町での『健康寿命の増進』と捉えることで、町内にある医療機関の取り組みや早期発見・早期治療の推奨と一体で、生涯教育等への取り組みを強めている。こうすることで、長寿を喜び合う社会（高齢者等弱者を大切に社会意識の高揚）の推進にとどまらず、高齢者による高齢者のための積極的な社会参加を呼び掛けることができ、『健康』への意識を高める前向きな取り組みが町政も町民も自治会等の自主的組織も持てると考える。

・子どもの権利条例の制定

本市は、自治基本条例に子どもの意見表明権を位置付けているが、運用は一切されていない。一方志免町では、子どもの権利条例が制定され、理念だけにとどめず、権利委員会の設置、権利委員会による調査権や市民からの意見聴取権を持たせるとともに、救済委員会（議会の同意が必要）は直接子どもの声を聞き、助言でき、また必要に応じて勧告、是正要請、報告の公表ができるようにしている。さらに『子どもの居場所』を条例に位置づけ、自主性に基づき対応へ努力しようとしていることは、本市にすぐにでも活かせる点と考える。

■ H 2 6 年 1 0 月 2 3 日 福岡県飯塚市 e-ZUKA における産学連携の取り組みについて

飯塚市は、福岡市と北九州市に挟まれた地域として、車・飛行機・列車による交通アクセスが整っているもとで、①生業として成り立たなければならない商業（創業や経営）と学術的な連携（理想と現実）をどう図るのか、②学生の入学卒業・キャンパス移動があるもとで、地域の定着をどう図るのか、③飯塚市の取組（創業に向けたチャレンジ）をステップに、全国的・国際的な創業に対し、飯塚市が見据える方向性など大変興味深い。

●感想

全国的に実施されている産業誘致型事業は、とりわけ工業団地という公共事業にすり替えられ、ソフト面での取り組みは補助金だよりとおざなりになり、工業団地の穴埋めだけに四苦八苦している自治体が数多くある。しかし、飯塚市では、

インキュベーションセンター整備、e-ZUKA トライバレーセンターなどハード面整備とどめず、商工部（産業振興課（産学連携室、企業誘致推進室）、商工観光課（商工係、観光係）、農林水産課（農政係、農林振興係、市場管理事務所）における人的配置、予算配分などソフト面での取り組みを継続している。

●本市に活かすべき点

・立場の違いを超えた商業振興への共同

日本経済全体が縮小していく中で、飯塚市では世界を見据え、シリコンバレー視察、スタンフォード大学（言語情報センター）との連携に議員も参加し、党派や立場の違いを超え、市政も議会も一体で協議・共同に着手できたことは重要な一歩となっている。

本市でも、市内の産業振興を口にしない議員はいないが、まだ党派の政策が優先され、一体感が欠けていることで、地域に根差した思い切った取り組みになりえていないのではないかと反省する。また、市内事業者が見据える方向と、行政の認識のズレが年々大きくなっているのではと考える。行政も議会も、産業振興政策は上からの押し付けではなく、現場から吸い上げる政策立案力の構築が急務ではないかと考える。

・学生とも事業者とも顔が見える関係づくり

飯塚市では可能な限り顔見知りの職員を配置することで、気軽に相談、相談内容の積み上げをスムーズにしていることは、転居等が多い学生にとっても安心感があり、創業・事業化への認識や課題を事業者・学生・市職員が共通認識を持つことから非常に重要だと考える。

・実態に即した創業支援

飯塚市では、創業前、工業時、創業後のフォローアップ体制も構築している。本市でも創業支援や国権補助の積極的活用に取り組んでいるが、学割（500円/m²）のあるオフィス貸出（事務机等）や、商店街空き店舗を活用した学生向けのチャレンジプロジェクトまではやっていない。まつりの実行委員会など行政のお手伝いで学生を利用するのではなく、学生の就労や夢の実現にわずかでも血肉になる取り組みへの脱却が必要と考える。商店街の空き店舗、森のマルシェなど機会は本市でも十分あるため、あとは具体化だけと捉える。

・市民の自主的な取り組みを大胆に応援する

飯塚市の窓口においているチラシには、「介護なき戦い 60才以上のダンス選手権 (R60)」、「掘るホルモン 底がいい 掘るホルめし」など目を引く文句が記載している。本市も含め、「遊びはダメ」「ふざけすぎ」など行政的な意向が市民団体のチラシ(後援・補助団体)や内容を面白くないようにしているケースもある。

しかし、飯塚市は、『仁義なき戦い』をもじり「介護なき」とし、一般的には映画等での鑑賞できない年齢を記載することから、「R」の負のイメージを、「R60」とすることで、ターゲットを明確にし、「60才以上だから参加できる」や「60才を超えても元気にダンス！」を受け止められる仕組みにしている。

「掘るホルめし」は炭鉱時代のB級グルメを各お店の創意工夫で現代版にアレンジし提供しているだけかと思いきや、形を井や山型の盛り付けにし、『掘る』行為にこだわっている。さらに、一般的なイメージとして『炭鉱＝“黒”→見た目が悪い(“黒”の持つマイナスイメージ)→商品開発に役立たない』という負の連鎖を転換し、「何色にも染まらない黒(KURO)」「だからこそ、想像力は無限大」とし、新スイーツ「KURO SELECTION」を発信している。これらのことは単に市民的発想だけではなく、担当市職員も市民の感覚や“遊び心”をうまく業務に取り入れていると感じとれる。

本市でも自治会やNPOなど市民活動は盛んであることから、飯塚市の視点を産業振興博や市民まつり、各種市民団体との関係性で築ければいい知恵(商業振興も含め)を引き出せると考える。

視 察 報 告 書

報告者氏名 坂巻忠志 印



1 委員会

つくばエクスプレス沿線整備と新川耕地・周辺特別委員会

2 期 間

平成26年10月22日(水)～23日(木)

3 視察地及び調査項目

(1) 10月22日 福岡県志免町 「若い世代急増におけるまちづくりについて」

(2) 10月23日 福岡県飯塚市 「e-ZUKA トライバレーについて」

4 所感等

1) 10月22日 福岡県志免町 「若い世代急増におけるまちづくりについて」

1、 志免町の概況

福岡県の西部に位置し、福岡市また福岡空港に隣接した南北に細長い小さな町。

間近にある福岡空港から福岡市中心部へ地下鉄が運行されるなど、福岡市のベッドタウンとして発展。

戦前派、海軍炭鉱、戦後は唯一の国営の炭鉱として発展。現在人口45,776人で人口密度は、約5,000人/km²と全国の町村で一位である。

縮小社会の時代において、福岡市周辺5市町で人口の急増が進んでいる。

2、人口増加はどうして起きているのか

1) 福岡市のポテンシャルによる相乗効果

○九州各地からの福岡への人口流入が続く

○大学や研究施設が多く学生が多い。⇒卒業後も暮らせる 京都・東京次に福岡

○20代後半から30代前半のシングル女性率No.1 ⇒サービス産業等、女性の働く場所に恵まれている。

2) 定住意向が強い理由 (毎年度の意識調査から)

○通勤や買い物など交通の便がよい

○住宅事業や生活環境が整っている

○医療機関が充実している

○災害や犯罪が少ない

3) 水道給水規制(人口抑制)解除 平成13年度

水事情を考慮して、転入を抑制策を講じた⇒自己水源がないため、志免町

は水の供給力に不安があり、やむなく 20 世帯以上の集合住宅建築に条例を 制定し規制した。

3、 人口増加におけるまちづくり

1) 「誰もが輝く住みよいまち」～ひと・環境がやさしく結びあうしめ～
将来像を実現するための基本目標を策定

2) 子どもが安心して育てられる環境・教育環境の充実

○待機児童解消に向け 1、民間委託による保育所開設 2、学童保育所の増設

○子どもの権利保障のため、「子ども権利条例制定 H19 条例添付

3) 教育環境の整備のため 1、耐震補強、大規模改修、増築等

4) 教育環境の充実 学級補助員の充実

5) いじめや不登校への対応や教育体制の充実を図る 専門的な知見と経験者を有するスクールソーシャルワーカーを配置

4、 今後のまちづくりの課題

1) 人口増加、高齢化の地域間バラつきによる今後の行政運営

○人口増加⇒空港に近い西地区⇒高齢化率は低い

○ニュータウンがオールドタウンへ 高齢化率が 40%に近い地区もある。*より決めの細かな行政運営が必要となる

2) 住民定着率を上げる施策展開⇒戸建建築の誘導等

3) 高額な医療費（75才以上住民一人当たりの医療費）1、医療機関の充実（福岡県 全国1位）志免町 4位 7, 1/k㎡あたり
施設 他地域では2施設ぐらい

健康づくりへの意識の高揚と健康寿命向上に向けた取り組み

2) 10月23日 福岡県飯塚市 「e-ZUKA トライバレーについて」

1、飯塚市の概要

福岡県の中央に位置し、炭鉱で栄えた筑豊の一都市である。国道200, 201, 211号線が市街地で交差した交通の要衝であり、福岡市内や空港へのアクセスにも恵まれている。平成18年に周辺4町と合併し、人口13万3,000人で福岡県第4位となった。面積は214,13km²。

2、 飯塚市における人口の自然動態と社会動体の推移

平成22年から24年において、自然増減では平均で300名オーバーの現象であり、社会増減では微増の状況にある。30代前半の若い家族の転入、新飯塚駅周辺人口の増加。


3、 飯塚市の強み

- 1) 市内大学・短期大学の学生数・教員数は人口の3, 5パーセント占めており理工学系学生及び研究者が集積している。3大学13学科
 - 2) 研究機関・産業支援機関・インキュベーション施設が集積
大学の研究機関、県・市・民間のインキュベーション施設場充実している。
 - 3) ベンチャー企業が集積
大学初ベンチャー企業を中心に、約50社が集積⇒半数以上が情報通信業が占める。全国10位の大学ベンチャーの設立を誇る。
 - 4) 「e-ZUKA トライバレー構想以前の産学官連携の取り組み
○ 平成9、10年市内ベンチャーと市議会議員3から4名がシリコンバレー視察。
○平成11年スタンフォード大学と CSLI と提携⇒イノベーション企業育成のためのインキュベーション施設の建設・スタンフォード大学 CSLI e-ZUKA 研究室設立等主な成果として。
- 4、 e-ZUKA トライバレー構想の概要
第1ステージの起業・ベンチャー企業支援から、第2ステージでは、企業の成長に合わせた支援、ビジネスも出る構想のための支援にシフト。
- 5、 飯塚市新産業創出ビジョン 「人と産業が集まり成長するまち」
1) 基本施策 第3ステージ
地域企業のイノベーション促進・課題解決型ビジネスの創出・企業ニーズに応じた支援体制の強化・人材と技術・情報の集積・医工学連携の推進
- 6、 飯塚市における企業支援体系
「人と産業が集まり成長するまち」を目指し、大学や産業支援機関、研究施設の集積を活用した「産学官連携」による新技術・新製品・新サービスの創出を促進している。
起業にあたっての知識習得から創業後の販路拡大支援まで、各種支援メニューを用意している。
- 7、 インキュベーション施設入居支援
○ e-ZUKA トライバレーセンター 操業を目指す企業や創業間もないベンチャー企業に対し、良好な研究開発環境を低廉な利用料で提供
○研究開発施設使用料減額
県立飯塚研究開発センター、福岡ソフトウェア等のインキュベーション施設等の使用量助成をすることにより、独創的な技術等を持って新しい事業展開を図ろうとする企業家、研究開発型企業のスタートアップ支援を行なっている。

以上

視 察 報 告 書 (志免町)

平成26年11月20日

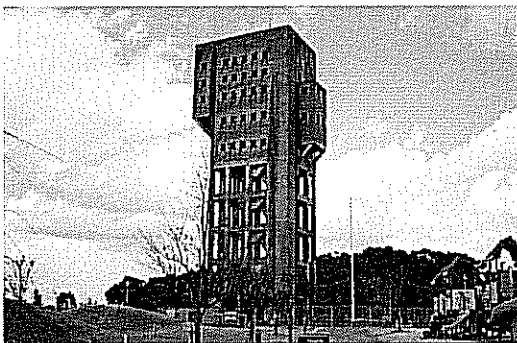
報告者氏名 田 中 人 実 

- 1 委員会名 つくばエクスプレス沿線整備と新川耕地・周辺特別委員会行政視察
- 2 視察日 平成26年10月22日(水)
- 3 視察都市及び視察事項
福岡県志免町
若い世代急増におけるまちづくりについて
- 4 所感等

町の概要

志免町は、福岡県の西部、福岡都市圏のほぼ中心に位置しており、福岡市また福岡空港に隣接した南北に細長い総面積 8.7 平方キロメートルの県下では 3 番目に小さな町である。山須恵町・宇美町・大野城市に接する東南の丘陵地、福岡空港をはさんで福岡市と接する西南の丘陵地の中の平坦地からなっている。昭和 14 年に町政を発足し、「志免町」となった。

戦前は海軍炭鉱、戦後は旧国鉄の志免炭鉱と、石炭の町として栄えていたが、昭和 39 年の閉山でおおきな打撃を受け人口は約 1 万 6000 人まで減少した。



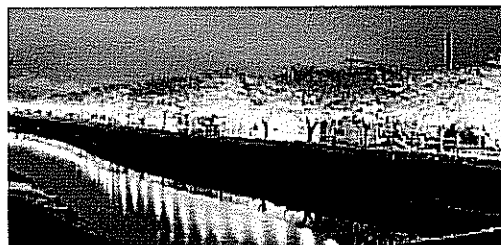
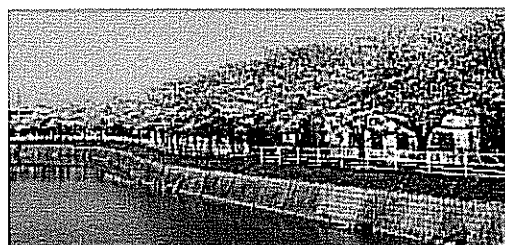
旧志免炭業所竪坑

旧日本海軍や日本国有鉄道によって運営された「国営炭鉱」志免炭業所の採炭夫を昇降させ、石炭を搬出するための施設。1943年(昭和18年)に完成。1964年(昭和39年)に閉山となった。現存しているのは世界でも志免炭鉱と龍鳳炭鉱(中国・撫順市)、トランブルール炭鉱(ベルギー・リエージュ州)の3か所だけである。

しかし、福岡市の中心部まで約8キロメートルという地の利と温暖な気候に恵まれ、昭和40年以降は福岡市のベッドタウンとして住宅開発が進み、人口は着実に増加した。給水体制が不十分なため、平成11年当時は、21戸以上のマンションに給水を拒否するなど、人口抑制

策をおこなっていた時期もあったが県の水道事業団の海水の淡水化事業により水不足が解消された。福岡市から東へ約8キロメートル、福岡空港から車でわずか10分という交通の利便性や医療機関の充実や住宅事情生活環境が整備されている。大学や研究施設が多く学生が多く、福岡市に就職することから卒業後の定住率も高い。また、九州新幹線の開業により20代後半から30代後半の女性が2000人転入している。平成26年10月1日現在、人口は45,776人で人口密度は5,000人/平方キロメートルと全国の町村では第1位の町となっている。

町内には農地は少なく、工業団地には、機械、金属工業を中心として約170の事業所が立地している。また、近年では、町の動脈である近隣の市町村を結ぶ福岡東環状線や県道福岡太宰府線などの幹線道路沿いに大型ショッピング店舗等が進出するなど、新たな商業集積がおこなわれており人口の増加が商業の活性化にも繋がっているものと思われる。桜の木は、緑あふれる町づくりを目指すシンボルとして、志免町の町花に制定されている。福祉公園など町内の桜の名所は、春になると町民の目を楽しませている。3月下旬から4月始めの桜が満開の時期には宇美川沿いの桜並木を夜間ライトアップし、幻想的な夜桜の世界を創出している。また、志免町では、花いっぱい運動やコスモス事業など、花であふれる町づくりをおこなっている。



着実に人口が増加する志免町

国政調査に基づく福岡県人口移動調査では、志免町の人口は、昭和55年の32,241人が平成32年には46,918人と着実に人口が増加している。20年で2万人増加し、とくに15歳までの子どもの増加が著しい。全国と同様に福岡県内の各自治体も人口減が予想される中、

2040年の人口推計値も49、450人と、あと4半世紀後まで人口の増加が予想されるという特異な町である。

毎年実施している町民意識調査では、定住意向の理由として主に次の4点があげられている。

1. 通勤や買い物など交通の便が良い
2. 住宅や生活かんきょうが整備されている
3. 医療機関が充実している
4. 災害や犯罪が少ないから

流山市のようにマーケティング戦略にもとづいて町のPRを特にしなくても、雇用の場や住環境が整備されていれば人々はより良い生活の営みの場を求め、人口は、増加するのが自然の摂理だと感じた。

人口増加におけるまちづくり

志免町では、「伸びる力、育む心を支えるまち」を基本理念として、子どもたちがこころ豊かで健やかに育っていくことを目指して、平成17年3月に次世代育成支援行動計画(志免町子ども未来プラン)を策定し、本プランに基づきさまざまな事業に取り組んでいる。本プランは、平成17年度からの5年間を前期、平成22年度からの5年間を後期とする2期10年間の計画で、その実施状況を毎年公表することと規定されている。

待機児童解消策として老朽化した町立志免保育園を民営化し、私立の認可保育園「志免あおぞら保育園」が25年4月開園された。

また、学童保育所の増設に取り組んでいる。また、私立保育園での英語教育に補助金を支給している。

平成19年には九州初の子どもの権利保障のため子どもの権利条約を制定している。

条例の理念を反映し、子どもの権利相談室、不登校を対照とした中学生から18歳までの居場所事業、子どもの権利の日のイベントとして年1回7実行委員会やNPOなどが子どもの権利フェスタを保育園などでおこなっている。

視 察 報 告 書 (飯塚市)

平成26年11月20日

報告者氏名 田 中 人 美



1 委員会名 つくばエクスプレス沿線整備と新川耕地・周辺特別委員会行政視察

2 視察日 平成26年10月23日(木)

3 視察都市及び視察事項

福岡県飯塚市

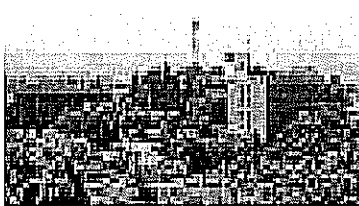
e-z u k aトライバレーについて

4 所感等

飯塚市は、平成18年3月1日市4町が合併し、現在人口131,046人面積214.13km²である。交通アクセスは、北九州空港、福岡空港までそれぞれ車で55分、50分、高速道路の3カ所のICまで30分～50分、鉄道は、博多駅まで40分。小倉駅までは60分と便利である。立岩、片島地区など新飯塚駅周辺には、マンションが建設され30代前半の若い家族が転入し、人口は、ここ数年7%から8%以上の伸びを示している。明治以降は「石炭の町」として栄えてきたが昭和30年代からは石炭産業が斜陽化し、人口の流出が相ついただことから、交通の利便性を活かし、工業団地を整備し企業誘致とともに、昭和41年に近畿大学九州工学部(現在の産業理工学部)及び近畿大学九州短期大学を、昭和61年には九州工業大学の情報工学部を誘致した。

現在、市の人口約13,000人の内約3.5%を占める約4,600人の理工系学生及び研究者が集積している。

近畿大学産業理工学部



九州工業大学



近畿大学九州短期大学




平成に入ってから、産学連携のコーディネートを行う福岡県立飯塚研究開発センターやSEなどの人材育成を行う第三セクター方式(株)福岡ソフトウェアセンターなどの産業支援機関や民間企業の研究施設、また、本市が提携しているスタンフォード大学言語情報研究センター(GSLI)飯塚ブランチの開設(~平成17年度)、近畿大学とドイツの総合化学メーカーであるヘンケル社との産学共同研究施設などが相次いで開設され、「情報産業都市づくり」の関連施設が集積した。



情報産業都市としての基盤整備が進んだことを受け、飯塚市は、頭脳集約型の企業の集積を図り、「知の連鎖」による内発型産業の創出を推進するため、平成14年1月、「e-ZUKA トライバレー構想」を発表した。

この“e-ZUKA”の表記にした理由は、1999年世界で初めて行政と大学が業務提携した、スタンフォード大学において、「Iizuka」は米国人にとって発音しにくいので、“e-ZUKA”をキャッチフレーズにしたらどうかと提言を受けたことによるもの。

しかし、スタンフォード大学との業務提携は、提携料の問題やマッチングがむづかしく6年で中止した。

	<p>《e-ZUKA トライバレーのロゴマーク》</p> <p>市内の近畿大学九州工学部 産業デザイン学科の学生が、“e”の文字に「タマゴ」をイメージし、十分に栄養をとってやがて殻を破って出てくるような勢いをデザインしたもの。</p> <p>殻を破って、何か新しい物事がこの地で生まれること、加えてeの楕円に様々なモノをつなぐネットワークの意味が込められている。</p>
---	---

2013年から2017年にかけて人と産業が集まり成長する町を目指して産学官連携による企業支援体型を構築した。

創業前、創業時、創業後において研究室の貸し出しや融資、新技術、新製品開発などに補助金を設けている。

現在、大学発ベンチャー企業を中心に約50社のベンチャー企業が起業している。